

1. 学校教育目標

瞳を輝かせて、自ら生き生きと活動する子

目指す子ども像・自ら進んで学習する子

- ・自分も友達も大切にする子
- ・心も体も元気な子
- ・自然やものに優しくかかわる子

経営方針(2) 確かな学力をつける

- ・一人一人を大切にし、すべての子どもを伸ばすため、子どもの理解に応じたきめ細かな指導をする。(授業の改善充実を図る。)
- ・学力向上プランを、教職員が共通理解し、児童の学力向上のために機能するようにする。

取組の重点

- ・研究教科を核として、各教科、総合的な学習などの教科等の枠を超えて読解力・記述力を育成する。

2. 研究主題 友だちと共に育つ、伸びやかでたくましい子

～互いを認め合い、豊かに伝え合う内容の充実を求めて～

3. 部会テーマ

育成部会・・・気持ちを、正しく素直に伝えられる子

低学年部会・・・おもいや考えを、順序立てて表現し合う子

中学年部会・・・おもいや考えを、分かりやすく伝え合う子

高学年部会・・・おもいや考えを、交流し合い広げる子

4. 主題設定の理由

葵校の児童は、落ち着いた家庭環境・地域環境の中でいろいろな文化に親しむ機会に恵まれて成長してきた子どもが多い。全般的に読書を好み、語彙力や知識量も豊富である。

しかし、その反面、いい子でいたいという気持ちが強く、失敗を恐れたり、正解か不正解かという基準にとらわれがちになったりして、自分を素直に表現することがやや苦手である。その結果、人との関わりが、どこか表面的で希薄なところがある。

「友達と共に育つ、伸びやかでたくましい子」という研究テーマは、このような葵の

子の実態から生まれ、国語科の研究も今年で5年目となる。一人一人の持つ良さを、集団の中で更に輝くものにして欲しいという、教職員の願いが込められている。

「みやこ学校創生事業」1年次・2年次は、国語科の中で、自分の考えや感動を伝え合うことを中心に研究を進めてきた。前年度までの成果として

・声に出すことへの抵抗が少なくなり、自分のおもいを積極的に表現しようとする意欲の高まりが見られた。

・温かい雰囲気を持つ学級作りなど、児童がお互いに理解し合うことが、コミュニケーションを支える大切な部分であるとの認識が深まった。

・学校全体で意識し取り組んだことで、言語環境の充実ができてきた。

などのことが挙げられる。しかし、

・自分のおもいを表現するだけで満足しており、状況に応じて、話したり書いたりする力がやや不足している。

・相手意識を持ってお互いに伝え合う力については十分とは言えない。

・感動や考えを素直に表現できるように、語彙を増やし、表現方法を学ばせることが必要。

などの課題も残っている。そこで、具体的に次のような姿を目指し「**互いを認め合い、豊かに伝え合う内容の充実を求めて**」というサブテーマを設定した。

互いを認め合う

・支持的風土（伝えて良かった、聞いて良かったというおもい）をもった学習集団。

相手の良さをみとめられる。考えの違いを認められる。説得したり、主張したりできる。友達の考えを取り入れて、さらに自分を高めたり深めたりできる。

豊かに伝え合う

・ことばは、内面的な思考を支える。語彙が豊かであれば、その中からよりの確で多様な言葉を選んで自分のおもいや考えを表現することができる。

・相手意識・目的意識を持ち、どうすれば効果的に伝えることができるかを考えることが豊かさにつながる。

・友だちの話を聞いて、なるほどそうだな、そんな考え方もあるのか、などともう一度自分に返して考えていくことが豊かさにつながる。

内容の充実

・伝える内容を充実させるためには、筋道立てて考え、その考えをまとめることが不可欠である。

・考えを整理するためには、書くという作業が大切である。（書くことによって思考力を高める。）

・すぐには話せない子ども、一度書いて考えを整理することで、自信を持って伝えることができるようになる。

5. 研究の重点

1. 「考えを整理するために書く」

授業の中に、相手意識・目的意識が明確な書く活動を取り入れ、記述力の伸長を図る。児童には、書くことで考えを整理するとともに、自分の書いたものが役に立つ実感や伝え合う楽しさを感じ取らせていく。教師は、表現するために有効で、幅のある「書くこと」の学習を工夫して設定し、伝え合いを充実させていく。

2. 「繰り返し、螺旋的に積み上げる学習によって、伝え合いの力を確実につける」

国語科の「書くこと」の単元や、他領域における書く活動でつけた力を、国語科以外（他教科・他領域）の書く活動にも生かし、全体として伝え合いの力を高めることを目指す。（年間指導計画の活用）

また、学力向上プランにもとづいて、帯時間による学習などを利用し、伝え合いを支える基礎的な力を高めていく。

葵校全体で、学年の発達段階に応じた系統性など大切にすることを明確化し、どの学年・学級でも継続して取り組む。

3. 「評価の観点を明らかにし、支援の手だてを具体化する」

- ・指導と評価の一体化（教師による評価）…学習過程の中で、どの子にも付けたい力を明確にし、評価規準としていく。この目標達成のため、工夫した授業を構築していくとともに、支援の必要な児童に対する具体的な手だてを考えていく。
- ・自己評価・相互評価の力を高める…子どもたちが、見通しを持って学習に取り組んだり、自分の学習をふり返ったりすることは、次の学習への意欲を高めると考えられる。学習計画表を利用するなどして、自己評価力を高め、子どもたちが、自分の頑張りや成長を意識できるようにしていく。
また、友だちの良さに気づいて、相手に伝えたり、自分の良さを認めてもらって喜びを感じたりすることで、お互いに高まり合うことができる。
このような自己評価力・相互評価力を高めるためには、教師側が、分かりやすい評価の視点を示すことが大切になってくる。

年間計画

月	取組内容	形態
4月5日(木) 4月9日(水)	研究骨子作成, 年間計画案作成 校内研究会 取組提案・決定	研究委員会 全体会
4月12(木)	校内研究会 年間計画作成, 具体的内容検討	全体会 部会
4月26日(木)	おひさま学級紹介授業 「アクロスティック自己紹介 他」 授業者 おひさま学級 菅田 弘久	総合支援教育公開授 業と兼ねて
4月27日(金)	授業研究会 筆者の考えを受けとめ、自分の考えを伝えよう 「平和のとりでを築く」 6年2組 谷中 慶子	高学年部会, 部会内 授業
5月17日(木)	校内研究会 各部会の取組・指導案の形式などの共通理解	全体会
5月25日(金)	授業研究会 じゅんじょに気をつけて 読んだり書いたりしよう 「たんぼのちえ」 2年2組 谷 早苗	低学年部会, 部会内 授業
6月13日(水)	校内研究会・授業研究会 本と友だちになろう 「白いぼうし」 4年2組 船越 宏子	校内授業研究会(1)
7月4日(水) (夏休み前)	校内研究会・授業研究会 調べたことを整理して書こう 「言葉の研究レポート」 5年3組 荻野 美津子 研究発表会までの日程調整・研究冊子などについて	校内授業研究会(2) 研究委員会
8月	講演または実技研修 研究発表会に向けての準備	全体会 各部会
9月6日(木) (予)	校内研究会・授業研究会 「すきなもの, おしえて」 1年1組 千葉 美智子	校内授業研究会(3)

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のまとめ ・研究発表会に向けての準備，冊子作り 	<p>全体会 各部会</p>
11月20日(火) (予)	<p>「みやこ学校創生事業」研究発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お話聞いてよ」 おひさま学級 菅田 弘久 ・よく見てかいて伝えよう <p>「みんなにしらせたこと」</p> <p>1年2組 吉田 美和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話，大好き <p>「お話が いっぱい」</p> <p>2年1組 真島 葉子</p>	<p>公開授業</p>
11月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして <p>「モチモチの木」</p> <p>3年3組 今西 和哉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉っておもしろいな <p>「言葉遊びの世界」</p> <p>4年1組 藤林 弘之</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた伝え方を考えよう <p>「ニュース番組作りの現場から ～工夫して発信しよう～」</p> <p>5年2組 久貝 宏昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きるために大切なこと」について 考えよう <p>「海の命」</p> <p>6年3組 福井 貴章</p>	<p>公開授業</p>
12月	<p>校内研究会 研究発表会の反省とまとめ</p>	<p>全体会</p>
1月	<p>校内研究会・授業研究会 言葉っておもしろいな</p> <p>「漢字と友だち」</p> <p>3年1組 瀬戸 享子</p>	<p>中学年部会，部会内 授業</p>
2月～3月	<p>校内研究会 年間反省・成果と課題 まとめの冊子作り</p>	<p>全体会 各部会</p>